

保物セミナー 2009 印象記

辰巳 奇男
Tatsumi Kasuo

2009年で12回目を迎え、すっかり秋の恒例行事となった保物セミナーが、10月29、30日に開催された。今回の会場は、久しぶりに大阪科学技術センターであった。会期中は最高気温が25を越す夏日となり、好天に恵まれたというよりは、むしろ暑いくらいであった。これも地球温暖化のせいであろうか。そう言えば会場で、「温暖化対策 温室効果ガス(CO2削減 原子力発電-保健物理と、まるで連想ゲームのように、保物セミナーにふさわしい天気ではないか」との話も聞かれた。

今回のセミナーは、4つのテーマと特別講演が2題、そしてお楽しみのポイリング・ディスカッションから構成されていた。

【10月29日】

・テーマ1「電磁界の健康影響について」

大阪科学技術センターは1997年に“電磁界に関する調査研究委員会”を設置し、関連する問題の検討を続けてきた。その委員長の山本幸佳氏(大阪大学)を座長としたテーマから、セミナーが始まった。

大久保千代次氏(電磁界情報センター)が、「WHOによる商用周波磁界のリスク評価」について解説された。WHOが約2,000編の論文

や報告書などを検討して見解をまとめたもので、これによると継続的な低レベルの磁界ばく露が、小児白血病の頻度を増やすことが疫学的には弱い関連性で示されるが、実験研究では支持されていないとしている。続いて、竹下達也

氏(和歌山県立医科大学)が、「疫学について」と題して分析疫学的手法、解析方法や疫学的因果関係の判断基準などについて述べられた。

「小児白血病について」は、原純一氏(大阪市立総合医療センター)が、白血病の定義から発がんメカニズム、その他の要因に至るまでを詳細に説明された。今では遺伝子レベルまで解明が進み治癒率が非常に高くなったが、それも頭打ちの状態であるとのことであった。

・テーマ2「最新機器の開発動向」

このテーマは今回からの新企画であったが、当初の予定を超え8社から最新機器や技術開発の熱心な発表があった。

・「ポイリング・ディスカッション」

会場を移して、料理とお酒を片手に、あちこちで自由な意見の交換が行われた。豪華な賞品が用意されたビンゴゲームでは、超高価な秋の味覚を昨年に続き同じ方が当てられたらしい。「来年も絶対参加する」とニコニコ顔であった。

【10月30日】

・特別講演1「安全規制状況と規制の動向について」

中夫隆夫氏(文部科学省)より、法令改正など規制の動向、クリアランス制度の概要そして法令報告から見た最近の状況を説明された。ICRP2007年勧告の取り入れでは、排気、排水基準の、より現実的な数値への見直しが予想されるとのことであったが、是非この機会に、表

面汚染密度限度の見直しもお願いしたい。

・テーマ3「保健物理のこれから」

最初に、辻本忠氏（電子科学研究所）が「これまでの保健物理」]として、自身の保健物理50年を振り返り、かつての状況を詳しく説明された。また、「保健物理研究センター」設立の夢を熱く語られた。続いて、「これからの保健物理」]では、杉浦紳之氏（近畿大学）が1998年のシンポジウムで挙げられた課題を示し、この10年間の進み具合や、問題点をとり上げ、「将来に向けて大事に思うことと、まとめられた。『各分野より見た保健物理』]では、医療関係から横山頂美氏（藤田保健衛生大学）、電力の現場は鈴木良男氏（東京電力（株）が、大学の現場からは社会貢献の例を安岡由美氏（神戸薬科大学）が、最後に将来を担う若手から荻野靖之氏（電力中央研究所）が、それぞれの立場からの保健物理について述べられた。ややもすると一括りに保健物理と言ってしまうが、そのカバーする範囲の広さを改めて認識させられた。フロアからは、「もっと一般社会に出て行くべき」などの意見が出ていた。

・特別講演2「原子力安全委員会の活動についてー放射線関連ー」

久住静代氏（原子力安全委員会）より、普段あまり目に触れることのない原子力安全委員会の活動をより知っていただきたいと、原子力行政体制と原子力安全委員会、委員会の放射線関連活動などを丁寧に紹介され、久住氏から会場への質問も行われた。年間に開かれる会議は400回にも及ぶとのことであった。

セミナーの最後は例年通り「日本保健物理学会の特別セッション」]で、今年のテーマは「医療被ばくに注目して」]であった。冒頭で、座長の太田勝正氏（名古屋大学）から「保健物理と



講演会場のようす

して医療被ばくを避けて通れなくなった」と、この企画の説明があり、続いて小山修司氏（名古屋大学）より「医療被ばくの現状」]の豊富な資料を用いた非常に詳しい説明があった。「医療被ばくのリスク」]では、疫学研究の知見とリスク推計、その問題点を吉永信治氏（放射線医学結合研究所）が解説された。「医療被ばくの正当化と最適化」]は、伴信彦氏（大分看護科学大学）が、参加されたIAEA（国際原子力機関）のミーティングを中心に紹介された。今後の予想としては、改訂される基本安全基準に盛り込まれるらしい。最後にフロアも交えた総合討論に移り、病院でよく目にする妊婦への注意書の掲示」]の意味合い”など活発な議論が交わされた。

*

新型インフルエンザの影響が懸念された「偉物セミナー2009」]であったが、今回も200名弱の参加者を得て盛会のうちに進み、来年の再会を約した山半季住氏（大阪大学）の閉会挨拶をもって終了した。

（近畿大学ライフサイエンス研究所）